

第 20 回 防災会議 議事録

日 時 : 令和元年 11 月 4 日 (月) 16 時 00 分～17 時 55 分
場 所 : 高尾台町会会館
出席者 : 35 名
司会・進行 : 清水 義博 (IDPT)
議 長 : 片岡 重人 (町会長)
議事録作成 : 堀内 克之 (町会 総務)

議長挨拶

役員・班長連絡会での防災に関するアンケートにご協力頂き感謝します。今回は、1 月 19 日に予定していた第 20 回防災会議を前倒して行います。10 月 20 日に予定していた第 6 回 防災懇談会 (2 丁目班) を中止した件の検討を始め、次年度の防災活動のあり方を検討したく、アンケートの集計内容等を参考にして皆さんの意見を頂きたい。よろしくお願いします。

協議にあたって

IDPT・清水 義博

防災活動を通常の町会活動と同様な形に改めることを先の定例総会に提案し、高尾台自主防災会の解散と新たに防災委員を選出すること、防災活動方針、避難所運営組織並びに防災力強化組織を賛成多数で可決。来年度は防災委員が選出されて新しい形でスタートする運びです。

今年度は、防災勉強会、防災会議、防災懇談会の案内を活動主体である班長全員にお届けしました。ただ出席があまり得られなかったもので、次年度に向け、現状把握と分析を行い、次年度のスタートに備える協議の必要があると考え本日の防災会議の開催となりました。第 19 回防災会議でも同様の趣旨の協議を行いましたが結論は得られていません。

今年度は、防災懇談会を 1 丁目班、2 丁目班、3 丁目班という括りで取り組んでいます。防災懇談会は班長を対象にして、ここ 3 年取り組んで来ましたが、継続的に防災活動に取り組む方は殆ど見受けられない状況です。

伏見台校下防災訓練等で得たものが蓄積されず、伝わっていません。これを心配した人たちが「生きた自主防災高尾台」を作って防災活動を継続しています。「生きた自主防災高尾台」は 3 年前に役員会で提案・承認を得て、定例総会で町会組織として承認を頂きスタートしました。それまでは 20 年以上に亘り行政の指導により誕生した「高尾台自主防災会」を組織してきましたが、町会の組織として活動することはありませんでした。「生きた自主防災高尾台」の立ち上げは、災害発生時に必要な情報を共有できる準備が必要なことに気付いてスタートしたものです。

第 1 回防災懇談会で、積極的になれないのは何故かを話し合い、横に広がらない町会の防災活動は限界があると考え 2 年間いろんな施策を講じてきました。

横に広がらない町会の防災活動を広げるためには、班長を主体として班単位で取り組んで頂くことが効果的であると考え施策を進めていますが、町会活動は防災活動以外にも多々あり、それをサポートする班長に様々な防災活動参加を依頼するとあまりにも負担が増すことから、各班に防災委員を置き班長とともに防災活動を推し進めて頂くことを目的に定例総会で承認を

得て、来年度から本格スタートとなることになっています。

防災勉強会では「東京防災」を配布しこれを教材に進めています。これまでの4回のうち班長の参加は2名のみです。防災力強化は、ハザードマップを例に取ってみても広域のものでは不十分で班単位のところまで持って行って役立つものとなるので、班単位での取り組みが必要です。関心の高い地震発生は千年単位で観測・予想がなされていますが、千年前に起こったことが、明日起こるかもしれない状況です。知っていても他人事で自分事ではないと思っている傾向も多々感じられます。防災アンケートの結果より班ごとに年齢構成も、お年寄りの数も、防災意識も違う。最終的には班ごとに防災に対する意識を認識し備えなければならないことは明らかです。他人任せで良いわけがありません。そのためにまずは丁目単位に取り組みようと試みて来ました。

本日は、現状を踏まえて来年はどうするか方針を決め、更に町会には30班もあるのだから班ごとの色々な事情を考慮して具体的な活動を決めていきます。

1. 第6回 防災懇談会 中止の分析と今年度2月の防災懇談会のあり方検討

① 中止の分析

I D P T・清水 義博

班長にいろいろ事情があつて、参加は1つの班のみ。これではコミュニケーションが図れない。気心の知れた人を増やそうという趣旨に沿わないので中止とした。

何故なのか確かめようということで、役員・班長連絡会で班長にアンケートを実施した。

アンケートは、1 防災懇談会は、必要・18、必要でない・4。

2 避難訓練・防災フェスタ等は、必要・20、必要でない・2。

3 不参加の理由は、用事があつた・19、興味がない・3

4 意見

- ・興味あるが、自分の予定を崩してまで行こうとは思わない
- ・他所では大きな被害が出たが、この地区では浸水は大丈夫だろう
- ・いつ起きるか分からない。備えなければならないという必要性は持っているが、行動に至らない ←問題点で、一番難しいところ。

町会長・片岡 重人

町会活動は、強制参加でないという大前提がありますので、皆さん、まあいいかという所が大きいのではないかと思います。しかしながら防災に関することはたくさんの方に参加して頂きたいということで、意見交換をお願いします。

② 次回の1丁目対象防災懇談会のあり方

日程を町会で2月8日に決めていたが、1丁目副会長・中田さんが不都合です。

中田1丁目副会長

研修のため参加できません。日程変更をお願いします。LINEで1丁目班長のグループを作りました。いろんな情報を伝えられるようになったので、本日は、1丁目班長は全員参加です。危機感を持って考え、想像したりして、自分の意見を言ってもらえるのが防災会議の目的だと思いますので忌憚りの無い意見を出して欲しい。

町会長・片岡 重人

1 丁目で防災懇談会の日程をLINE使って再設定してもらおう形でよいか。

意見：良いのではないか。

町会長・片岡 重人

1 丁目班の皆さんが全員参加で良かった。次の懇談会は2月8日に予定しているが、開催日を含めて協議して頂いて、なるべく早く参加の多い日に決めて頂くことでお願いします。準備のこともあるので早めに決定して下さい。

中田 1 丁目副会長

何をするかを含めて班内で相談していいですか。いつまでに決定すればよいですか。

IDPT・清水 義博

内容については、やりたいことをやればよい。

町会長・片岡 重人

2 週間ぐらい前までに決めて下さい。ご飯を作るのでも、普通に勉強するのでも、ディスカッションするのでも、とにかく集まって話して頂く意見交換の場が出来ることが一番大切です。これが知りたい、こういうことを教えてほしい、こういうことをやりたいと意見を出して頂いて、防災懇談会の中で取り込んで出来る範囲で出来るような形になれば良いかなと思う。サポートとして経験のある IDPT が加わっていけば良いと思います。そういう準備を含めて2 週間前でいいですか？ 1 丁目班の皆さんの都合で決めて下さい。

意見：

- ① 開催日はいつでも良いが、何をしたいのか、何を聞きたいのか。開催日を決めるよりも何に関心があるのか調査し内容を定めるのが先ではないか。
- ② ハザードマップを見ると高尾台町会の河川は1 本のみ。見直したらどうか。
- ③ 班長だけでなく、隣近所集まって関心を集約し、希望を聞いて要望に基づいて日程を決めたらどうか。

IDPT・清水 義博

ハザードマップを作っている担当者を呼んできて、話を聞くことは可能。危険を知ることが先か、どんな備えをするかが先か、高尾台町会がこれまでどうしてきたのかを聞くことも可能。

中田 1 丁目副会長

伏見台地区には森本富樫断層が通っている。地震発生の確率7 %という状況に驚いた。

意見：ざっくりと開催の月だけでも決めて、内容についてはその次でどうか。

IDPT・清水 義博

年末はいろんな事がある。2 月だったら日程的に少し猶予があるかな。

町会長・片岡 重人

2 月9日はどうですか。2 月9日に今現在予定がない人。いないようですので2 月9日に決定します。内容・時間は1 丁目班にお任せします。

中田 1 丁目副会長

意見の交換も必要なので、数回に分けて行いたい。

意見：意見の交換は出来れば班長連絡会の時にやってはどうか。

中田 1 丁目副会長

欠席の時は、代理の方を立てて出席してもらおう。情報を伝えて下さい。

IDPT・清水 義博

1丁目に関しては2月9日開催。内容については班長連絡会の時に話合う。LINEも使い話し合いの内容を交換する。内容が決まってから2丁目班に連絡する。

2. 今年度の現状を踏まえ次年度防災活動のあり方検討

IDPT・清水 義博

今年度の現状を踏まえ、高尾台町会の防災活動が目指すのは、班単位で動く互近所での助け合い。

次年度からは、防災運営主体である各丁目班に防災懇談会の企画、日程、運営の全てを任せる体制でスタートを切る。何をするか、何時するか、どうするか、は各丁目班が検討し決定する。IDPTは、検討する材料としてこれまでの防災勉強会や防災懇談会の内容を企画メニューとして提供する。防災勉強会のテキスト「東京防災」を使用する場合はお渡ししません。IDPTメンバー29名は自らの丁目に参加し可能な限り手伝いをするようになります。

その上で、IDPTは防災勉強会を継続し、知識を増やし、経験を積んで防災力を蓄積する。

防災会議は、メンバーをLINE組織の執行役で年4回開催し、執行上必要な事項に絞って議論する。IDPTは材料の提供とヘルプを行う。各丁目班の防災活動に参加を求められたら参加するということに変えたらいかがですか。防災委員が誕生して防災会議に集まって、意見を出してもらっても今日みたいになる。執行役にお任せすべきで、執行のための会議として防災会議を位置づける。

意見：②の中止した第6回防災懇談会をどうするか、についてはどうなるか。

IDPT・清水 義博

1丁目の内容が決まった後にどうするか決める。場合によっては便乗開催もある。

町会長・片岡 重人

2丁目として単独でやるのか1丁目に乗っかるか。2丁目無しというままでは具合が悪い。

輪島2丁目副会長

第一歩の集まるというところからと思って、何回も電話するが出て来ない。欠席しますと言われたら、どうにもならない。

町会長・片岡 重人

役員班長連絡会の時に話し合っていて、単独ですか、乗っかってするか、基本的にはやらないという事は無しにして話し合っていて頂きたい。次の役員班長連絡会でお願いします。

輪島2丁目副会長

班長の他に防災委員を1人増やすことは容易でない。

町会長・片岡 重人

防災委員を各班より選出するという事は今年度の定例総会で決まった事。今回に関しては決まっているのでやらねばならない。町会則に記載されているように原則は班長と兼任できません。兼任禁止はあくまで原則ですので、来年の班長を選ぶ際に自らの班では出せないで兼任になる旨を町会に申告して頂ければ兼任は不可能ではありません。それは勿論、班で決めて頂くことになります。

意見：防災委員をお願いしなければならないことは聞いていた。自分の班は11世帯で班長を廻して、新たに防災委員を決めなければならない。班の人にどういうふうに決めたら良い

か話し合いたい。その際、どういう仕事があるのか調べた上で知らせるので、一度集まってほしいと伝えてある。町会会館を貸して頂き全員に話して、追いかけたペアで廻すことになるか、同一の人に何年も続けてもらうか、話合います。中には若い者がやれば良いと言われる人もいます。防災委員を決めなければならないことを分かっていない人もいます。新しく来た人がやれば良いとの意見もある。助けられる方で助けられない、そんなもんやっというてと突き放されることもあります。町会費を集めた時にしか会わないし、防災に関しては丸投げ、若い人でやっというてと言われるだけとの意見もありました。

意見：防災懇談会・防災クッキングに申し込んだ。3丁目の方から楽しかったと言われた。

子供を連れて行っていいと言われた。何かきっかけがあれば参加し易いのかな。

意見：任せますと言うと誰もやってくれない。知ることが大事、知らないのはいけないこと。少し強制的に集まって知ってもらう。若い者がやれば良いと言われたら、その方にこそ知ってもらいたい。知ってもらうには、こういう所に来てもらわないと、と個別にポストに入れて知らせるが、最終的には若い人がやればと行き着く。1丁目とやるにしても人数が多い方が盛り上がる。

IDPT・清水 義博

話し合ううちに、やろうよと言う方もいる。コミュニケーションしていないだけ。防災懇談会の後には2時間ばかり話し合う。それで後に外で会った時に挨拶できる。

意見：4、5年続ける方か、1年毎交代か、どちらが良い。

IDPT・清水 義博

続けていただいた方が良い。そんなに負担が掛かることはない。防災懇談会1回を企画し、運営し、乗り切るだけ。コミュニケーションの輪が広がる。

輪島2丁目副会長

婦人部の欠員の事でてんやわんや、中々決まらない。防災委員を決めるのは大変。

案として、班長をされた次の年続けて防災委員になったらやり易いのではないか。

IDPT・清水 義博

その方がやり易いと言える。2年間やる事になるが、そんなに班長程の仕事量でもない。手助けを前提とすれば可能性はある。防災委員はいた方が良い。

輪島2丁目副会長

どうにもならない時は、兼任してもらうことになる。

IDPT・川原 利治

役員を決める時にくじで決めることもある。原則として、役員を決めなければならない。この程度ならできる。やってもいいとなれば、再任もある。班の中でどうするか決めてもらう。同じ人がずっとやるより、親睦が大事。防災の知識を持っている人がどんどん仕事を決めていくが、実際は防災委員が平常時やる事はほとんど無いと思われる。

意見：難しいこと考えないようにしましょう。きりが無い。

意見：多分暇。

意見：何か起こった時、班長をやっているれば班内の事情は分かる。班内で決めてもらって廻した方がいいのではないか。

意見：町会として原則を決めてもらった方が良い。そうした方が有り難い。お願いする時に説得力ある。

意見：班長さんに来年は防災委員お願いしますと言える。

お願いする立場としては、防災委員の内容が分からないとできない。引き受けることもできない。年に1回の防災懇談会開催の企画と運営が防災委員の仕事ということではどうか。丁目単位で？

IDPT・清水 義博

当面は丁目単位で行います。班単位で行うのは最終形です。

意見：防災委員は何をするのか。

町会長・片岡 重人

最初採決を頂いた時には防災会議に出席することまで入っているが運用の問題で今からでも変えられる。今から議論していくことになります。次の定例総会までに役員会に提案して、定例総会の審議事項として審議し議決という形になる。今の流れとしては定例総会で決めたものとして防災委員は防災会議に出席ということが本来である。

運営の変更であれば、緩やかなところで出来るのではないかと。最初は極力兼任しないでとの言い方だったのが、兼任やむなしというところまでになっています。解釈としては、そういう解釈で良いのではないかとという意見が今のところ多い。

本来は、班長が兼任することは負担になるかな、と別に防災委員を決めるのが目的。なってもらおうと大したこと無い、兼任しても大したこと無い、その辺は班で話し合いをしてもらいたい。話し合うこと自体が、今まで出来なかった話し合いが出来るようになる。

最終的には兼任させるか班に任せると意見が多数出ていた。その中で今日出ているのが、班長をやった次の年は防災委員にという意見が出ている。

IDPT・清水 義博

町会則・防災方針には、防災委員は防災会議に出ること自体規定していません。防災委員は各班1名、各行事に参加して防災力強化活動を行うとなっている。私が求めているのは、防災に関する正しい知識を身に付けるために家族や近所の人と話し合いを始めて下さいと言っているだけです。

町会長・片岡 重人

防災力強化活動を行うためにも最低限防災会議に参加して勉強して下さいと言っています。

IDPT・清水 義博

防災会議参加は任意で良いのではないのでしょうか。

町会長・片岡 重人

防災会議参加が任意となると何も参加しなくて良いということになってしまう。

IDPT・清水 義博

防災力強化のために丁目単位で防災懇談会を企画運営するとなっているのでは。

町会長・片岡 重人

防災会議参加が最初の話であり、防災に関して勉強するには防災会議に出るのが一番手っ取り早い方法。是非とも参加して欲しい。

意見：防災委員を決めるのにどう言って説明するか。何もしなくていいとは言えない。

これとこれはやると。

IDPT・清水 義博

1丁目の防災活動には参加して下さい。1丁目の決める防災活動に2丁目の防災委員は参

加して下さい。内容は何をしようとする防災に関する正しい知識を身に付けることをご近所ご家族に対して今から始めて下さいということで、誰かを呼んで来て、備えについて聞くのか、丁目単位で企画、運営、内容的なことを其処に入って一緒に決めて下さい。

IDPT・竹内 陽子

例えば防災委員になったら防災会議に出席します。月1回あります、3回ありますとか。こういう活動するから2ヶ月に1回出席することがありますとか。今の班長さんは月1回あるが、それにプラスして出席しないといけないのか。

IDPT・清水 義博

今年は防災懇談会を丁目単位でやっている。3, 2, 1丁目ですら3回ある。この3回のために何をしますか、どんな役割があるか話し合いが2回、3×2で6回が必要となった。実際には班の人たちは何を知りたいのか、何をしたいのか、分からないままで、僕らが必要だと思うことを今年はやろうとした。

実際には無理がある。班単位で見てもバラバラですし、今防災委員を決めようとしても無理がありますね。来年の運用に向けてどうするか、すぐやろうと思った。町会則を読み直しても防災活動に参加して下さいとしか書いてない。

1丁目として活動3回やるとしても、3回こんなことをすると30人の防災委員と一緒に考えるわけだから、3回は無理。無理なら1回にする。今年やった運営では回らない。それを変えませんかと提案している。

2回ずつ6回やるのはとても無理。防災委員30人、班長30人で60人からになる。大勢の中で皆バラバラです。色々集めて今年はこれをやろうと、丁目単位で顔合わせだけでも良い、十分コミュニケーションにはなる。

今年は勉強会に出て来て下さいと言った。教材として「東京防災」を配ったが、来年はかくあるべしと何も決まっていない、何も分かっていない。

意見：私の意見は、色々班に任せても決まらないところがあって、恐縮です。班長と兼ねると決めてしまうのでどうですか。1年間で済む。いざことが起こった時、かぶって二度手間にならないか。行き違いになりかねない。

IDPT・清水 義博

班長兼務。新たに立てて1年毎に廻す。選択肢を示してこんな形でして下さいと全体に出しません。既にどう決めていいか分からないしね。

町会長・片岡 重人

その話はしていますよ。

意見：それは定例総会か役員会で決めなければならない話ですか。

町会長・片岡 重人町

ここでは決められない、役員会。

意見：役員会で諮っていただきたい。

町会長・片岡 重人

役員会で決定ではないが、次の定例総会に上げるということ。今年の段階でも兼務ダメと書いてはない。極力兼務しないと。

意見：町会で決めてくださいと申し上げている。

IDPT・川原 利治

兼務しないとなったのは、班長に更に仕事が増えることを危惧したことが趣旨。2丁目の防災懇談会をしようとした時、出席が悪かったのは、班長は防災の仕事は自分の仕事ではないと大半が思っているため。自分の予定を優先した。防災委員を決めると防災委員の仕事は防災懇談会の企画運営をすることぐらいしかないので、防災委員を決めた方が自覚を持って集まってもらえる。

意見：班長は皆さん必ず受ける。嫌と言う人はいない。班長を受けた時に、すみませんが防災委員の仕事もやると。ただ防災の仕事の負担が凄くあると言ったら班長と分けねばならない。さっきから聞いていると防災委員の仕事は大したこと無い、やってみて統一してほしい。もう一人決めるのは堪忍してほしい。

意見：班に任したらいい。基本線は兼務されると負担が大きいから。どうしても決まらないなら兼務。

意見：人数に応じて。町会で決めたら、決めただで大変。

町会長・片岡 重人

どちらにしても原則。今は、原則は兼務しないと決まっている。来年に向けて原則兼務でもいいですよと言葉上変わるだけで、今の意見が一致するなら皆さんの頭の中で原則兼務と思って頂ければ良いと思います。

来年に向けて言葉として議事録に載せる方向で。またそれはそれで、こちらの方で動いていきます。

IDPT・川原 利治

いずれにせよ防災委員を決める以上は最低こんな事をしなければならないと決めた方が良い。

町会長・片岡 重人

防災委員のやることは、防災懇談会に出るということですね。今からそれを文章に起こして役員会に諮って、来年の定例総会で決定という形になる。流れとしてはそういうふうに思っていて、班長さんには、次の班長さんをお願いする時にこの仕事が増えますよとお話頂ければ良いかなと思う。

意見：12月に班長を出しますが、それまでに今話し合っていることを文書で出して欲しい。

町会長・片岡 重人

文書で出せるのかという話。

IDPT・清水 義博

町会則・防災方針を決めるのではなく、決まっている規則をこう運営しますということ。新しい防災委員の仕事は防災懇談会の企画運営です。防災懇談会の企画運営は各丁目副会長と班長全員で決める過程の中に防災委員として参画して下さい。企画して、日程を決めて、運営する一つの行事だけです。

町会長・片岡 重人

定例総会で決まったことを覆して運営するにあたって、どういう公式文書を出せるのか判らないので言っている。出したはいいけど、そんなの無効だという人が出てきたとき、どう対応するか。公式な文書として出せるのか判らない。誰かに何か言われたらどう対応すればいいか判らない。

議事録という形で出します。今回こういう意見が出て、この方向性でやるという意見が出てその方向性でと議事録で出します。聞かれたら、議事録が出てこんな内容ですと話して頂く。

議事録配布します。そういう形でいくことをよろしく申し上げます。

3. その他

- ・ IDPTが分かりにくい。日本語に替えたいという話があったので、「ぼうさい高尾台」に替えたい。
- ・ 前回、蓄電池の事を聞かれたが、システムとしてはまだまだ高価。次の機会に資料を揃えて提案したい。

第20回 防災会議 次第

日時：令和1年11月4日（月）祝日 16時～18時

場所：高尾台町会会館 1F

出席者：35名

協議事項：

防災活動を通常の町会活動（バーベキュー・盆踊り・社会体育大会・除雪・防犯等）と同様な形に改めることを総会に提案し、高尾台防災会の解散と新たな役員として防災委員を選出すること、防災活動方針、避難所運営組織並びに防災力強化組織を賛成多数で決議頂きました。防災委員が選出される次年度が新しい形でのスタートとなることから、今年度開催の防災勉強会・防災会議・防災懇談会のご案内を活動主体である班長全員の皆さま並びに役員・班長連絡会に出席された総務、会計の皆さまに案内させて頂きました。

しかし、ご出席がほとんど得られなかったことから次年度に向け、現状把握と分析を通して問題点を抽出し次年度の本格スタートに備える協議が必要だと考えました。

1. 第6回防災懇談会中止分析～今年度2月防災懇談会のあり方検討～

- ① 第6回（2丁目対象）中止分析
- ② 中止した第6回をどうするか？
- ③ 次回の1丁目対象防災懇談会のあり方

2. 今年度の現状を踏まえ次年度防災活動のあり方検討

防災活動が目指すのは、班単位で動く互近所での助け合いです。このことを実現する取組が防災懇談会であると考え、次年度から1丁目、2丁目、3丁目各丁目（防災）班に企画、日程、運営の全てを任せるスタートを切るべきではないでしょうか？

何をするか、どうするか、いつするかは、当事者が考えなさいとして、年度当初に防災テキスト「東京防災」を班長・防災委員・役員に配布し考える材料とします。加えて、これまでの勉強会や懇談会内容を企画メニューとしてIDPTが提供、IDPTメンバーも自らの丁目に参加する運営とする。その上でスタッフ組織であるIDPTは勉強会を継続し、知識を増やし、経験を積み重ね防災力を蓄積する。防災会議は、メンバーをライン組織の執行役（会長・副会長・各丁目総務・総務部長）とし、年4回程度開催、年度活動テーマ、年間活動計画の決定並びに防災活動の執行上生じる問題解決を議論、解決する調整役を担う。防災委員の仕事は、防災に関する正しい知識を身につけ家族や近所の人たちとのコミュニケーションを図り班内の防災力を高めることにあります。具体的には、各丁目班防災活動「防災懇談会」を、副会長をリーダーとし皆さんと共に考え、企画、運営します。

3. その他

- ① IDPTという名称は、分りにくいので「ぼうさい高尾台」に名称変更する。
- ② その他（安価な家庭用蓄電池）